

2025年3月期 第3四半期 決算説明会



2025年2月5日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

2025年3月期 第3四半期決算状況

2025年3月期 第3四半期決算におけるポイント	4
1. 売上高・利益	5
2. セグメント別業績	8
- 自動車電池（国内）	9
- 自動車電池（海外）	10
- 産業電池電源	11
- 車載用リチウムイオン電池	12
- 特殊電池およびその他	13
3. 貸借対照表	14

2025年3月期 事業環境認識と業績予想

1. 2025年3月期 第4四半期の事業環境認識	16
2. セグメント別業績予想の修正	17
3. 売上高・利益予想の修正	18

2025年3月期 第3四半期決算状況

2025年3月期 第3四半期決算におけるポイント



2025年3月期 第3四半期業績 (4-12月)

	2023 年度 第3四半期(4-12月)	2024 年度 第3四半期 (4-12月)	増減	前年比
売上高	4,116 億円	4,268 億円	+152 億円	+3.7 %
営業利益	294 億円	318 億円	+24 億円	+8.2 %
のれん等償却前営業利益	298 億円	323 億円	+25 億円	+8.4 %
経常利益	290 億円	287 億円	△3 億円	△0.8 %
親会社株主に帰属する四半期純利益	177 億円	184 億円	+7 億円	+3.7 %
のれん等償却前 親会社株主に帰属する四半期純利益	181 億円	189 億円	+8 億円	+4.2 %
EPS (1株当たり四半期純利益)	215.77 円	183.39 円	△32.38 円	△15.0 %

業績の動向

- ▶ 売上高および営業利益の増加要因：自動車電池の販売数量の増加および産業電池電源の非常用の案件増加
および販売価格是正の効果
- ▶ 経常利益の減少要因：為替差損益の悪化、持分法による投資利益の減少
- ▶ 四半期純利益の増加要因：前年度に計上した関係会社整理損がなくなったこと
および非支配株主に帰属する四半期純利益の減少

4

© 2024 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

2024年度 第3四半期決算のポイントです。

売上高は4,268億円と前年対比で152億円の増収でした。
営業利益は318億円と24億円の増益、経常利益は287億円と3億円の減益、
四半期純利益は184億円と7億円の増益となり、経常利益を除くといずれも増収増益
となりました。

経常利益に関しては、トルコの連結子会社の差損発生により為替差損が悪化、
ホンダとの研究開発の合併会社であるHGYBでの費用増により持分法による投資利益
が減少し、ほぼ前年並み、若干減益となっています。

経常利益に関しては前年比で若干減少しました。

四半期純利益は、前年に計上した関係会社の整理損がなくなったこと、
今年度トルコ拠点やブルーエナジーなどの合併会社の利益の減少が若干あったことで
非支配株主利益が減少し、増加しています。

1. 売上高・利益



	2023 年度		2024 年度		増減	(前期比)	(億円)	
	第3四半期 (4-12月)		第3四半期 (4-12月)				【参考】2024 年度予想 (4-3月)	
							当初予想 (2024.5) ※	修正予想 (2025.2)
売上高	4,116	過去最高 4,268	+152	(+3.7%)		5,900	5,900	
売上総利益	931	996	+65			-	-	
営業利益 (利益率)	294 7.1%	過去最高 318 7.4%	+24 +0.3P	(+8.2%)		440 7.5%	470 8.0%	
のれん等償却前営業利益 (利益率)	298 7.2%	過去最高 323 7.6%	+25 +0.4P			445 7.5%	478 8.1%	
営業外収益	52	52	+0			-	-	
営業外費用	56	82	+26			-	-	
うち持分法による投資損益 (△は損失)	30	17	△13			-	-	
経常利益	290 7.0%	過去最高 287 6.7%	△3 △0.3P	(△0.8%)		440 7.5%	440 7.5%	
特別利益	37	11	△26			-	-	
特別損失	38	5	△33			-	-	
税前四半期純利益	289	293	+4			-	-	
法人税等	61	83	+22			-	-	
非支配株主 四半期純利益	51	25	△26			-	-	
親会社株主 四半期純利益 (利益率)	177 4.3%	過去最高 184 4.3%	+7 △0.0P	(+3.7%)		260 4.4%	270 4.6%	
のれん等償却前親会社株主 四半期純利益 (利益率)	181 4.4%	過去最高 189 4.4%	+8 +0.0P			265 4.5%	278 4.7%	
EPS (1株当たり四半期純利益)	215.77 円	183.39 円	△32.38 円			259.21 円	269.19 円	
CF計算書 関係	減価償却費 (のれん除く無形固定資産含む)	168	186	+18		-	-	
	のれん償却費	2	3	+1		-	-	
相場情報/ 前提条件	国内鉛建値 (万円/t)	37.29 万円/t	38.02 万円/t	+0.73 万円/t		40.5 万円/t	40.5 万円/t	
	LME (US\$/t)	2,136 US\$/t	2,071 US\$/t	△65 US\$/t		2,200 US\$/t	2,200 US\$/t	
	為替 (円/US\$)	143.78 円/US\$	153.03 円/US\$	+9.25 円/US\$		155.00 円/US\$	155.00 円/US\$	

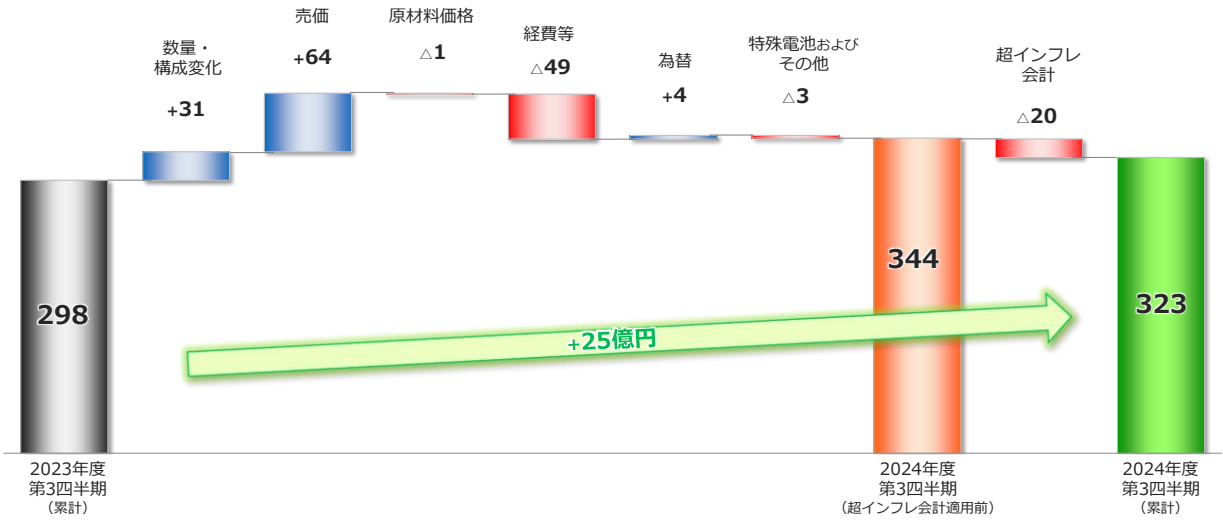
※ 前提条件のみ2024年11月の決算の際に変更しています。

売上高、営業利益、四半期純利益で第3四半期としては過去最高を更新しています。
当初予想に対しても上振れ基調です。

1. 売上高・利益

営業利益増減要因（前年比較）

（億円）



（注）営業利益はのれん等償却前営業利益です。2023年度 第3四半期は「超インフレ会計」適用前のため、比較のため「超インフレ会計適用前」の営業利益を表示しています。

営業利益の増減要因です。

原材料価格の内訳としては、鉛関係は原材料高、リチウムは市況下落により原材料安となり、全体としての影響はほぼありません。
鉛に関しては原材料高ではありますが、売価反映ができています。

経費に関しては物量増による増加に加え、インフレに伴う経費・人件費の増加を売価是正により対応することで、約25億円の増益となりました。

1. 売上高・利益

営業外損益・特別損益・法人税等などの増減要因（前年比較）

(億円)

	2023 年度 第3四半期 (4-12月)	2024 年度 第3四半期 (4-12月)	増減
営業利益	294	318	+24
営業外収益	52	52	+0
営業外費用	56	82	+26
経常利益	290	287	△3
特別利益	37	11	△26
特別損失	38	5	△33
税金等調整前四半期純利益	289	293	+4
法人税等	61	83	+22
非支配株主に帰属する四半期純利益	51	25	△26
親会社株主に帰属する四半期純利益	177	184	+7

※ 内は2024年度3Qの金額

- ▶ 持分法損益の減少 △14億円
(持分法による投資利益 17億円)
- ▶ トルコの超インフレ会計適用による増加 +15億円
(正味貨幣持高による利得 17億円)
- ▶ 主にトルコ拠点での支払利息の増加 △8億円
(支払利息 36億円)
- ▶ 主にトルコリラ安による為替差損の拡大 △20億円
(為替差損 23億円)

営業外損益、特別損益の内訳です。

営業外収益はほぼ前年並みです。

営業外費用はトルコ拠点の借入金の増加と金利高に伴う支払利息の増加、為替差損の悪化の影響で営業外費用が増加して、経常利益を押し下げています。

特別利益、特別損益に関しては、今期は特に変化がありませんでした。前期に大きな売却益、整理損があったものが今期はなくなっています。

四半期純利益の増加要因は、LEJの100%子会社化による影響、トルコ拠点・ブルーエナジーなどの合併会社の損益悪化により、非支配株主への配分が減少し、四半期純利益が押し上げられたことです。

2. セグメント別業績



		2023 年度 第3四半期 (4-12月)		2024 年度 第3四半期 (4-12月)		増減		(億円)			
								[参考] 2024 年度予想 (4-3月)			
								前回予想 (2024.11)		修正予想 (2025.2)	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)
自動車 電池	国内	689	52 (7.6)	732	70 (9.6)	+43	+18 (+2.0)	1,000	85 (8.5)	1,000	90 (9.0)
	海外	1,907	134 (7.0)	1,993	142 (7.1)	+86	+8 (+0.1)	2,590	175 (6.8)	2,640	178 (6.7)
産業電池電源		737	64 (8.7)	772	101 (13.2)	+35	+37 (+4.5)	1,200	135 (11.3)	1,150	170 (14.8)
車載用 リチウムイオン電池		629	24 (3.9)	604	△12 (△1.9)	△25	△36 (△5.8)	900	20 (2.2)	900	10 (1.1)
特殊電池およびその他		154	24 (15.4)	168	20 (12.2)	+14	△4 (△3.2)	210	30 (14.3)	210	30 (14.3)
合計		4,116	298 (7.2)	4,268	323 (7.6)	+152	+25 (+0.4)	5,900	445 (7.5)	5,900	478 (8.1)

24年度 第3四半期実績

- 国内自動車生産は新車メーカーの操業停止は徐々に回復が進むものの前年対比では減少
- LMEは安値で推移、国内鉛建値は円安により前年対比で若干高値が継続
- 為替は第2四半期には一定円高が進んだものの、前年対比では円安が継続

<相場情報 前提条件>

	2023 年度 (4-12月)	2024 年度 (4-12月)	増減	[参考] 2024 年度予想 通期 (4-3月)	
				前回予想 (2024.11)	修正予想 (2025.2)
国内鉛建値 (万円/ト)	37.29	38.02	+0.73	40.5	40.5
LME (US\$/t)	2,136	2,071	△65	2,200	2,200
為替 (円/US\$)	143.78	153.03	+9.25	155.00	155.00

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

8

© 2024 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

セグメント別業績は車載用リチウムイオン電池、特殊電池およびその他を除き増収増益です。

車載用リチウムイオン電池は減収減益となり、営業利益は大きくマイナスです。1Qで大きく営業損失を出し、2Q・3Qで少し持ち直しつつありますが、まだ挽回しきれていない状況です。

その他特殊電池を除く各セグメントについては増収増益、特に産業電池電源については大幅な増益となっています。

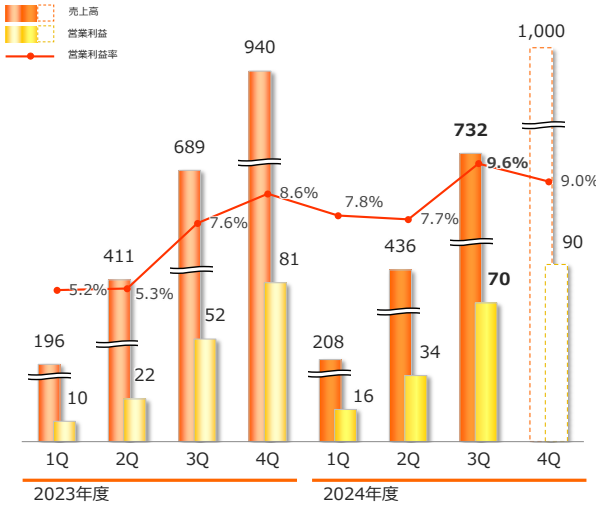
2. セグメント別業績 (自動車電池 (国内))

自動車電池 (国内)

増収増益

売上高・営業利益・利益率 (累計) (億円)

2024年度 第3四半期商況 (4-12月)



> [新車向け]

販売数量は前年対比で減少しているものの、売価見直しにより売上高は増加

> [補修向け]

販売数量が増加したことにより売上高が増加

増減益要因 (前年比: 4-12月)

数量・構成変化	+4	補修向け数量増加
売価	+34	売価見直しにより増加
原材料価格	△15	円安・インフレによる原材料価格の上昇
経費等	△5	

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

自動車電池 (国内) は売上高732億円で前年対比+43億円の増収、営業利益は70億円で前年対比+18億円の増益となりました。

新車向けの販売数量は前年対比で減少しているものの、売価見直しにより売上高は増加しています。

補修向けは販売数量が前年対比で増加したことにより売上高が増加しています。

営業利益は利益率の高い補修向けの数量増加に加え、新車向けの売価見直しにより増益となっています。

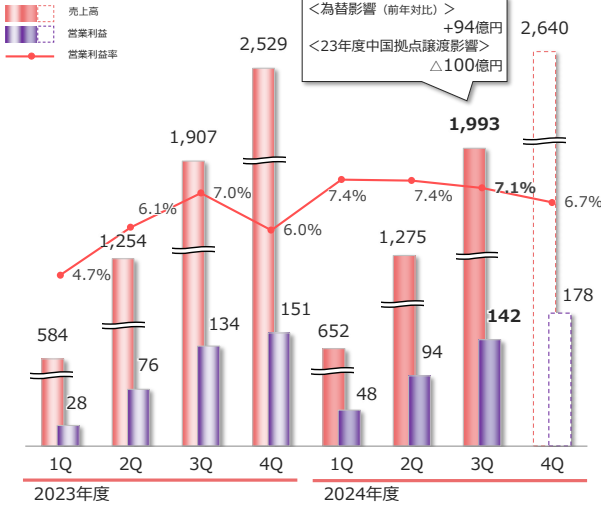
2. セグメント別業績 (自動車電池 (海外))

自動車電池 (海外)

増収増益

売上高・営業利益・利益率 (累計) (億円)

2024年度 第3四半期商況 (4-12月)



> [東南アジア]

タイでは引き続き新車生産減の影響を受けて新車向けは減少したものの補修向けは堅調を維持、インドネシア・ベトナムは自動車用・オートバイ用ともに好調が継続

> [欧州]

補修向けを販売している欧州市場では、トルコリラ安を背景とした競争力のある自動車用電池の販売数量が堅調に推移

> [豪州]

「Made in Australia」により販売数量は堅調に推移するとともに、為替影響により売上高は増加

増減益要因 (前年比: 4-12月)

数量・構成変化	+50	戦略拠点を中心に数量増加
売価	+85	コスト上昇の売価反映により増加
原材料価格	△37	インフレに伴う原材料価格の上昇
経費等	△72	インフレ影響による経費増加
為替	+4	円安による換算影響
超インフレ会計	△20	

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

自動車電池 (海外) は売上高1,993億円で前年対比+86億円の増収、営業利益は142億円で前年対比+8億円の増益となりました。

売上高については、前年度下期より持分法適用会社とした中国拠点の影響により△100億円ですが、これをカバーしたうえで+86億円の増収となっています。

為替による換算影響は一定ありますが、アセアン・欧州・豪州で販売数量が堅調に推移しました。

これに伴い、営業利益は超インフレ会計の影響が△20億円ありつつ、これをカバーして+8億円の増益です。

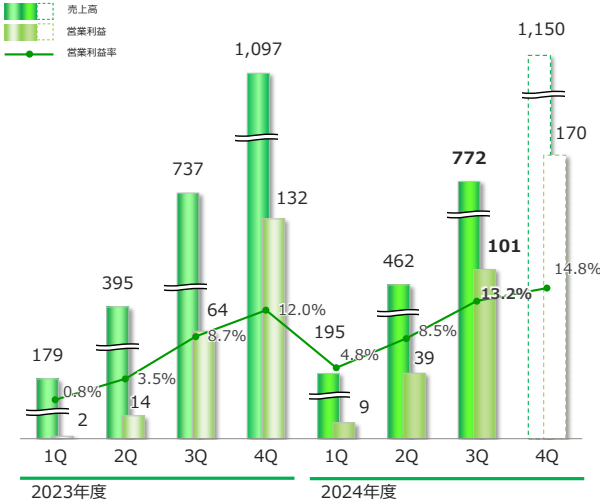
2. セグメント別業績 (産業電池電源)

産業電池電源

増収増益

売上高・営業利益・利益率 (累計)

(億円)



2024年度 第3四半期商況 (4-12月)

> [常用 (国内)]

前年度 第3四半期に大型案件があった影響および補助金の関係による案件の来期以降への後ズレ影響もあり売上高は減少

> [非常用 (国内)]

官公庁・原子力向けなどの好調、データセンター需要の拡大による販売増やミニUPSの納期改善に加えて、売価見直しもあり売上高は大きく増加

> [フォークリフト用 (グローバル)]

売価見直しにより売上高は微増

増減益要因 (前年比: 4-12月)

数量・構成変化	+12	非常用の案件増加
売価	+35	売価見直しにより増加
原材料価格	△17	円安・インフレによる原材料価格の上昇
経費等	+8	

産業電池電源は売上高772億円で前年対比+35億円の増収、営業利益101億円で前年対比+37億円の大幅な増益となりました。

常用分野に関しては前年度第3四半期に大型案件（ENEOS向け）があった影響により、いわゆる蓄電（ESS）用リチウムイオン電池の販売が減少しています。補助金が26年度まで継続することで、案件の来期以降へのずれが影響し、売上が減少しています。

非常用に関しては好調であり官公庁、原子力、データセンター向けでの需要が堅調に推移しており、売上高は増加しています。

これに伴い利益も増加しています。

加えて、昨年度実施した売価是正の影響により利益が押し上げられています。

2. セグメント別業績 (車載用リチウムイオン電池)

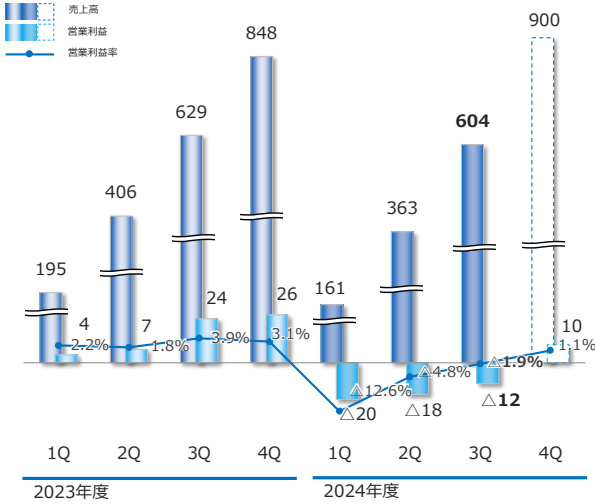
車載用リチウムイオン電池

減収減益

売上高・営業利益・利益率 (累計)

(億円)

2024年度 第3四半期商況 (4-12月)



> [HEV]

ホンダを中心に販売数量は増加しているものの、リチウム市況下落に伴う売価低下により、売上高は若干減少

> [PHEV]

新たな納入車種による販売増加はあるものの、上期までの販売数量の減少により売上高は減少

> [12V LiB]

販売数量の増加および売価見直しにより売上高は増加

増減益要因 (前年比: 4-12月)

数量・構成変化	△34	HEV用は増加したものの、PHEV用の販売数量の減少とそれに伴う操業度の低下影響
売価	△90	リチウム市況下落に伴う売価低下
原材料価格	+68	リチウム市況下落に伴う良化
経費等	+20	物量減に伴う経費減など

車載用リチウムイオン電池は売上高604億円で前年対比△25億円の減収、営業利益△12億円で36億円の減益となりました。

HEV車用リチウムイオン電池の物量が一定増加しているものの、原材料であるリチウム市況の下落により売価が低下し、売上高が若干減少しています。

旧LEJで生産しているPHEV用リチウムイオン電池は、上期までの物量減が大きく影響しており、下期より新たな車種向けの納入が始まっているものの物量が伸び切らず減収です。

12Vリチウムイオン電池は欧州向けの物量が増加しています。また売価是正もあり売上高が増加しています。

利益に関しては損失が大きく膨らみました。

HEV車用のリチウムイオン電池は特に1Qの原材料と売価のスプレッド差が累計でも大きく残っています。

PHEV用リチウムイオン電池の物量が想定および前年比で大幅に減少したことにより、操業度の低下なども含めて3Q時点の業績に大きく影響を与えています。

2. セグメント別業績 (特殊電池およびその他)

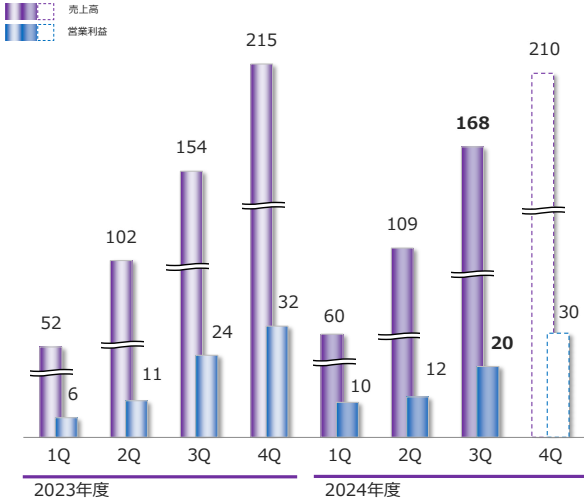
特殊電池およびその他

増収減益

売上高・営業利益 (累計)

(億円)

2024年度 第3四半期商況 (4-12月)



➤ [潜水艦用リチウムイオン電池] 契約単価見直しにより売上高が増加

➤ [航空機用リチウムイオン電池] エアライン (補修) 向けは下期にかけて増加傾向ではあるものの、新設向けの減少もあり売上高は減少

増減益要因 (前年比: 4-12月)

潜水艦用リチウムイオン電池などの契約単価見直しがあったものの、管理部門の経費増加により減益

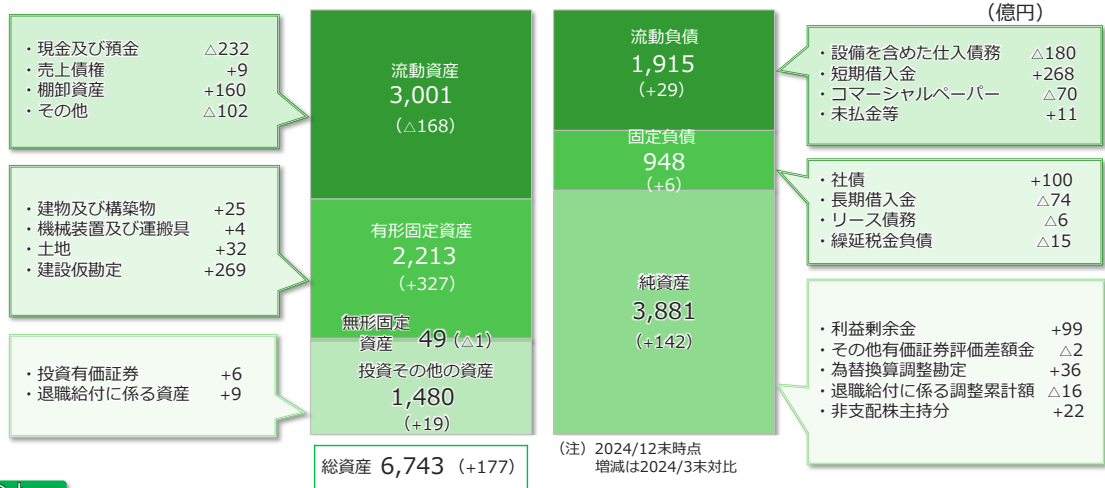
特殊電池およびその他は売上高168億円で前年対比+14億円の増収、営業利益20億円で前年対比△4億円の減益となりました。

潜水艦用のリチウムイオン電池は契約単価の是正が進み増収増益です。

航空機用リチウムイオン電池は前年比で減少していますが、為替の影響で利益は増加しています。

一方、管理部門の経費の増加により減益となりました。

3. 貸借対照表



ポイント

- 産業電池電源で需要期に向けて在庫が増加
- BEV用電池の製造に向けた土地取得およびHEV用LiBの7,000万セル/年の生産体制に向けて建設仮勘定が増加
- 第2四半期のサステナビリティ・リンク・ボンド発行により社債が増加

	2024/3末	2024/12末
自己資本比率	50.3%	50.7%
借入金総額	762億円	986億円

2024年12月末時点の貸借対照表です。

総資産は6,743億円と前年対比+177億円の資産増です。

流動資産は168億円の減少です。現預金の取り崩しが進んでおります。

固定資産についてはBEV用の土地取得などに加え、HEV用リチウムイオン電池の第2工場の生産増強投資で増加しています。

負債に関しては上期に社債を発行しており、短期借入金についても運転資金の関係で増加しています。

純資産は四半期純利益が確保できたことにより、配当の支払いもありましたが+142億円の増加となっています。

自己資本比率は若干改善し50.7%と引き続き50%台を維持しています。

2025年3月期 事業環境認識と業績予想

1. 2025年3月期 第4四半期の事業環境認識



自動車電池	国内	<p>新車生産は回復が進むとともに、補修向けは引き続き好調を想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ＜新車向け＞新車生産の回復とともに販売数量も徐々に正常化されていく見込み ＜補修向け＞酷暑・寒波影響に加えて、コロナ禍で交換された電池の交換サイクルの影響もあり引き続き好調を想定
	海外	<p>戦略拠点（アセアン・欧州・豪州）では引き続き販売数量好調を想定も、トルコ拠点などで若干の懸念あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ＜アセアン＞タイは新車生産減があるものの補修向けは好調を維持、インドネシア・ベトナムは好調が継続する想定 ＜欧州＞欧州での補修向け電池販売は好調想定も、トルコ拠点・中近東エリアの地政学リスクによる影響懸念あり ＜豪州＞「Made in Australia」により販売数量は好調維持を想定
産業電池電源		<p>常用は引き続き旺盛な需要だが、補助金※の関係により納入時期の後ズレの影響を想定。非常用分野を中心にセグメント全体では引き続き好調を想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ＜常用＞旺盛な需要を背景に多数引き合いが来ているものの、補助金の関係で来期以降への納期後ズレの影響を想定 ＜非常用＞官公庁・原子力を中心とした案件増および売価見直しによる好調を引き続き想定 ＜フォークリフト＞売価見直しにより堅調を維持する想定 <p><small>※一般社団法人 環境共創イニシアチブ「令和6年度 系統用蓄電池・水電解装置導入支援事業」（https://sii.or.jp/chikudenchu06/）-補助事業期間の最終完了期限が「2027年1月19日（火）」まで対象</small></p>
車載用リチウムイオン電池		<p>HEV向けは第1四半期を中心としたリチウム市況下落による原材料・売価のスプレッド悪化影響の改善に加えて、ホンダ向けを中心とした数量増により改善が進むものの、PHEV向け販売数量は計画より大きく減少しており、通期でも継続して数量減少を想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ＜HEV＞第1四半期を中心としたリチウム市況下落による原材料・売価のスプレッド悪化影響の改善に加えて、ホンダ向けを中心とした数量増などにより改善は進む ＜PHEV＞販売数量は計画より大きく減少しており、通期でも継続して数量減少を想定
特殊電池およびその他		<p>潜水艦向けは売価見直しの影響が続くとともに、航空機向けもエアライン（補修）向けは改善を想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ＜潜水艦向け＞契約単価見直しによる値上げ影響は引き続き継続する想定 ＜航空機向け＞新設向けの減少、エアライン（補修）向けの増加傾向は継続する想定 ＜管理部門＞期末にかけて若干の経費の増加を想定

16

© 2024 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

第4四半期の事業環境認識です。

自動車電池（国内）について、新車向けの販売数量は徐々に正常化されるものの、通期としての物量は当初予想を下回ると想定しています。補修向けに関しては新車向けの減少により、交換需要が継続すると想定しています。

自動車電池（海外）に関しては、タイではローン審査の厳格化により新車が減少するものの、その分補修は好調となっています。インドネシア・ベトナム・欧州は引き続き好調が維持されると想定しています。一方、トルコは中東情勢の悪化やインフレ継続が見込まれるためリスクととらえています。

産業電池電源に関して、国内常用は需要が強い一方で、今年度は補助金の関係で若干来期にずれ込む影響で減少する見込みです。一方で非常用分野は3Qまでも好調で、4Qにおいてもあまり減少要因はないと認識しています。

車載用リチウムイオン電池については、HEV用リチウムイオン電池におけるリチウム市況の下落影響に伴い売価も低下しますが、現在のリチウム市況は安定しています。現在は原材料の相場と売価が連動できるような仕組みの交渉を顧客と進めており、今後は市況変動に伴う損益の影響を最小化する取り組みを実施していきます。PHEV用リチウムイオン電池が今期想定よりも減少している状況を踏まえ、業績の下振れ要因になりうると想定しています。

特殊電池に関しては、引き続き防衛省向けの潜水艦用のリチウムイオン電池、鉛蓄電池の契約単価の見直しが進んでいます。航空機用は新設向けは減少していますが、補修向けが徐々に増加していくと想定しています。

2. セグメント別業績予想の修正

		2023 年度 実績		2024 年度 11月予想 (B)		2024 年度 2月予想 (A)		増減 (A)-(B)		[参考] 2024 年度当初予想	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)	売上高	営業利益 (利益率:%)
自動車電池	国内	940	81 (8.6)	1,000	85 (8.5)	1,000	90 (9.0)	-	+5 (+0.5)	1,000	80 (8.0)
	海外	2,529	151 (6.0)	2,590	175 (6.8)	2,640	178 (6.7)	+50	+3 (△0.1)	2,590	165 (6.4)
産業電池電源		1,097	132 (12.0)	1,200	135 (11.3)	1,150	170 (14.8)	△50	+35 (+3.5)	1,200	130 (10.8)
車載用リチウムイオン電池		848	26 (3.1)	900	20 (2.2)	900	10 (1.1)	-	△10 (△1.1)	900	40 (4.4)
特殊電池およびその他		215	32 (14.9)	210	30 (14.3)	210	30 (14.3)	-	- (-)	210	30 (14.3)
合計		5,629	422 (7.5)	5,900	445 (7.5)	5,900	478 (8.1)	-	+33 (+0.6)	5,900	445 (7.5)

セグメント別修正理由

- > <自動車電池（国内／海外）・産業電池電源>
数量増や売価見直しによる上振れ、円安影響を反映して見通しを上方修正
- > <車載用リチウムイオン電池>
HEV向けで原材料・売価のブレッド影響および数量の改善は進んでいるものの、PHEV向け数量減などのマイナス影響の挽回は厳しく見通しを下方修正

<相場情報/ 前提条件>	2023 年度 実績	2024 年度 11月予想 (A)	2024 年度 2月予想 (B)	増減 (B)-(A)	[参考] 2024 年度 当初予想
国内鉛建値 (万円/t)	37.34	40.5	40.5	±0.0	37.2
LME (US\$/t)	2,121	2,200	2,200	±0	2,200
為替 (円/US\$)	145.31	155.00	155.00	±0.00	145.00

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

各セグメント別の業績予想の修正です。

売上高は自動車電池（海外）と産業電池電源で50億円ずつ入り繰りしていますが全体では変更していません。

営業利益はのれん等償却前で445億円を想定していましたが、+33億円増益修正を行い、478億円の見直しを立てています。

自動車電池（国内）は売価是正、補修向けの数量増が続くと想定して、+5億円の上方修正。

自動車電池（海外）はトルコのインフレに伴い、のれんの金額が増えており、その分を修正しています。

実質は据え置きで、アセアン・欧州は堅調ですが、トルコのリスクを見て据え置いています。

産業電池電源は+35億円の大幅な上方修正です。売価是正や非常用電源の需要の増大が、常用分野（ESS）のマイナスをカバーして上振れすると見えています。

車載用リチウムイオン電池はPHEV用の数量減が想定よりも厳しく、顧客と売価交渉を進めるものの、不透明な状況であり見通しを△10億円引き下げました。

3. 売上高・利益予想の修正



	2023 年度実績		2024 年度実績・予想			(億円)	
	3Q累計実績 (4-12月)	通期実績 (4-3月)	3Q累計実績 (4-12月)	当初予想※ (4-3月) (B)	2月通期予想 (4-3月) (A)	増減 (A)-(B)	(前期比)
	売上高	4,116	5,629	4,268	5,900	5,900	±0
営業利益 (利益率)	294 7.1%	416 7.4%	318 7.4%	440 7.5%	470 8.0%	+30 +0.5P	(+13.0%)
のれん等償却前営業利益 (利益率)	298 7.2%	422 7.5%	323 7.6%	445 7.5%	478 8.1%	+33 +0.6P	
経常利益	290 7.0%	440 7.8%	287 6.7%	440 7.5%	440 7.5%	±0 ±0.0P	(±0.0%)
親会社株主 当期純利益 (利益率)	177 4.3%	321 5.7%	184 4.3%	260 4.4%	270 4.6%	+10 +0.2P	(△15.8%)
のれん等償却前親会社株主 当期純利益 (利益率)	181 4.4%	326 5.8%	189 4.4%	265 4.5%	278 4.7%	+13 +0.2P	
EPS (1株当たり当期純利益)	215.77 円	369.74 円	183.39 円	259.21 円	269.19 円	+9.98 円	
配当金 (円/株) (24年度は予想)	-	70 円 (通期)	-	70 円 (通期)	70 円 (通期)	±0 円	
相場情報/前提条件	国内鉛建値 (万円/t)	37.29 万円/t	37.34 万円/t	38.02 万円/t	40.5 万円/t	40.5 万円/t	±0.00 万円/t
	LME (US\$/t)	2,136 US\$/t	2,121 US\$/t	2,071 US\$/t	2,200 US\$/t	2,200 US\$/t	±0 US\$/t
	為替 (円/US\$)	143.78 円/US\$	145.31 円/US\$	153.03 円/US\$	155.00 円/US\$	155.00 円/US\$	±0.00 円/US\$

※ 前提条件のみ2024年11月の決算の際に変更しています。

業績の見直し

- 自動車電池 (国内/海外) ・産業電池電源の販売増加や売価見直しを踏まえて営業利益予想を上方修正しました。経常利益についてはトルコ拠点の支払利息の増加や為替差損の悪化もあり据え置き。親会社株主に帰属する当期純利益は非支配株主に帰属する当期純利益の減少もあり上方修正しています。配当予想については現時点では見直していません。

通期業績予想について、営業利益は大幅な増加を見込み、のれん等償却後440億円から470億円に+30億円上方修正しています。

経常利益に関しては主にトルコの為替差損の悪化、支払利息の増加の影響が今期は継続すると想定し、440億円での据え置きとなっています。

当期純利益については、非支配株主に帰属する当期純利益が減少した影響により+10億円の上方修正をしています。

今回、通期業績予想を上方修正しましたが、配当予想に関しては一旦据え置きとしています。

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。
本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。

**連絡先**

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
コーポレート室（広報） 青木 裕・西島 務・田中 祥太・神田 文
Tel : 075-312-1214
<https://www.gs-yuasa.com/jp>

参考資料

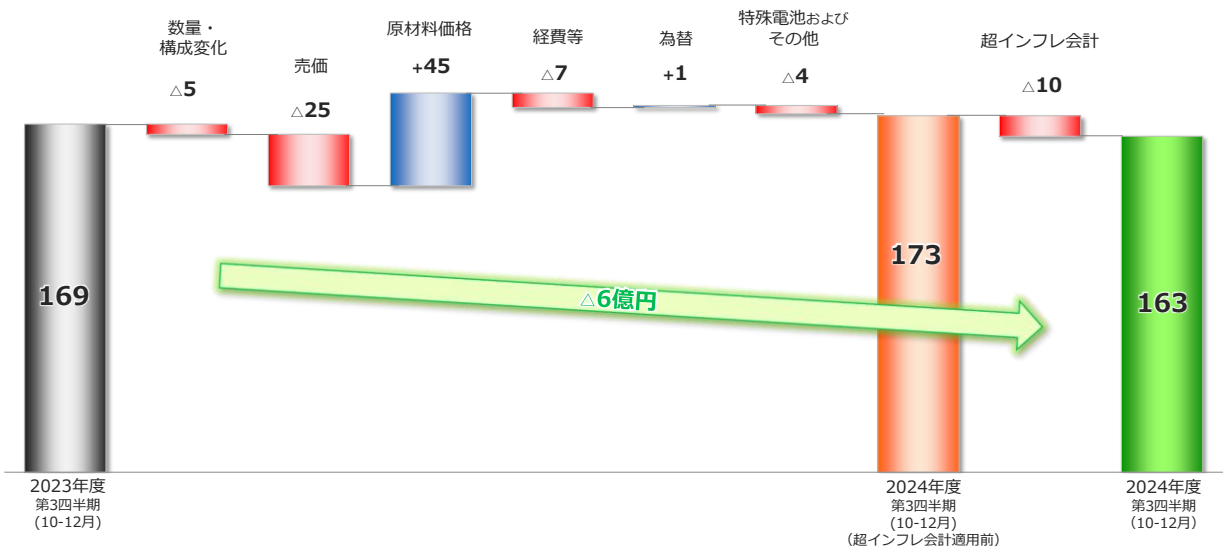
参考資料. 売上高・利益 (3か月情報)



	(億円)						
	2023年度 第3四半期 (10-12月)	2024年度 第3四半期 (10-12月) (A)		増減	(前期比)	【参考】前四半期情報	
		2024年度 第2四半期 (7-9月) (B)	増減 ((A)-(B))				
売上高	1,548	1,623	+75	(+4.9%)	1,369	+254	
売上総利益	380	395	+15		316	+79	
営業利益 (利益率)	167 10.8%	161 9.9%	△6 △0.9P	(△3.9%)	95 7.0%	+66 +2.9P	
のれん等償却前営業利益 (利益率)	169 10.9%	163 10.0%	△6 △0.9P		97 7.1%	+66 +2.9P	
営業外収益	23	16	△7		14	+2	
営業外費用	20	34	+14		31	+3	
うち持分法による投資損益 (△は損失)	17	1	△16		8	△7	
経常利益	170 11.0%	142 8.8%	△28 △2.2P	(△16.1%)	78 5.7%	+64 +3.1P	
特別利益	32	10	△22		0	+10	
特別損失	30	3	△27		1	+2	
税前四半期純利益	172	149	△23		77	+72	
法人税等	32	50	+18		25	+25	
非支配株主 四半期純利益	22	9	△13		5	+4	
親会社株主 四半期純利益 (利益率)	118 7.6%	90 5.5%	△28 △2.1P	(△23.7%)	46 3.4%	+44 +2.1P	
のれん等償却前親会社株主 四半期純利益 (利益率)	119 7.7%	92 5.7%	△27 △2.0P		48 3.5%	+44 +2.2P	
CF計算書 関係	減価償却費 (のれん除く無形固定資産含む)	55	71	+16		57	+14
	のれん償却費	1	1	+0		1	+0
相場情報	国内鉛建値 (万円/t)	38.19 万円/t	36.88 万円/t	△1.31 万円/t		37.20 万円/t	△0.32 万円/t
	LME (US\$/t)	2,119 US\$/t	2,006 US\$/t	△113 US\$/t		2,041 US\$/t	△35 US\$/t
	為替 (円/US\$)	146.14 円/US\$	154.19 円/US\$	+8.05 円/US\$		146.66 円/US\$	+7.53 円/US\$

営業利益増減要因 (前年比較)

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。2023年度 第3四半期は「超インフレ会計」適用前のため、比較のため「超インフレ会計適用前」の営業利益を表示しています。

参考資料. セグメント別業績 (3か月情報)



		2023年度 第3四半期 (10-12月)		2024年度 第3四半期 (10-12月) (A)		増減		[参考] 前四半期情報 (億円)					
		売上高		営業利益 (利益率:%)		売上高		営業利益 (利益率:P)		2024年度 第2四半期 (7-9月) (B)		増減 ((A)-(B))	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)
自動車 電池	国内	278	30 (10.9)	296	37 (12.5)	+18	+7 (+1.6)	227	17 (7.6)	+69	+20 (+4.9)		
	海外	652	58 (8.8)	718	49 (6.8)	+66	△9 (△2.0)	623	46 (7.3)	+95	+3 (△0.5)		
産業電池電源		342	51 (14.8)	310	62 (20.1)	△32	+11 (+5.3)	267	30 (11.2)	+43	+32 (+8.9)		
車載用 リチウムイオン電池		224	17 (7.6)	241	6 (2.5)	+17	△11 (△5.1)	203	3 (1.3)	+38	+3 (+1.2)		
特殊電池およびその他		51	13 (25.5)	58	9 (15.0)	+7	△4 (△10.5)	50	2 (3.3)	+8	+7 (+11.7)		
合計		1,548	169 (10.9)	1,623	163 (10.0)	+75	△6 (△0.9)	1,369	97 (7.1)	+254	+66 (+2.9)		

24年度 第3四半期 (10-12月) 実績

- 国内自動車生産は新車メーカーの生産回復が進むものの前年同期比では減少
- LMEは安値で推移、国内鉛建値は円安により前年対比で若干高値が継続
- 為替は第2四半期は日銀利上げなどにより円高が進んだものの、第3四半期は円安基調

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

<相場情報>	2023年度 第3四半期 (10-12月)	2024年度 第3四半期 (10-12月) (A)	増減	[参考] 前四半期情報	
				2024年度 第2四半期 (7-9月) (B)	増減 (A)-(B)
国内鉛建値 (万円/t)	38.19	36.88	△1.31	37.20	△0.32
LME (US\$/t)	2,119	2,006	△113	2,041	△35
為替 (円/US\$)	146.14	154.19	+8.05	146.66	+7.53

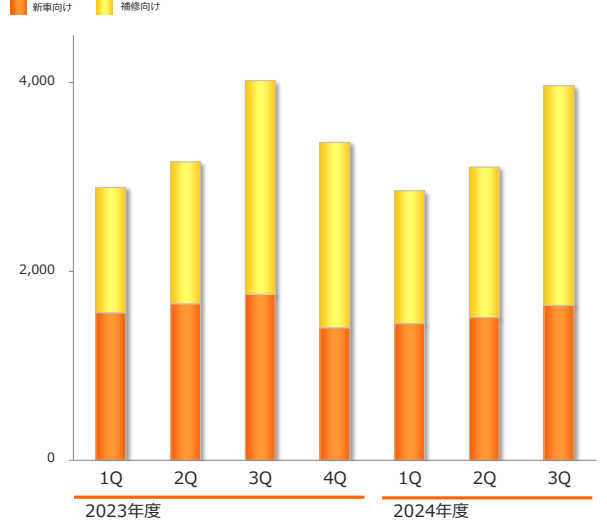
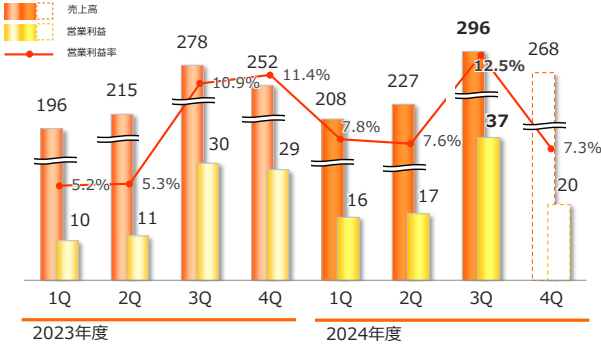
参考資料. セグメント別業績 (3か月情報)

自動車電池 (国内)

増収増益

売上高・営業利益・利益率 (3か月) (億円)

新車向け・補修向けの出荷数量推移 (千個)



増減益要因 (前年比: 10-12月)

数量・構成変化	+1
売価	+14 売価見直しにより増加
原材料価格	△7 円安・インフレによる原材料価格の上昇
経費等	△1

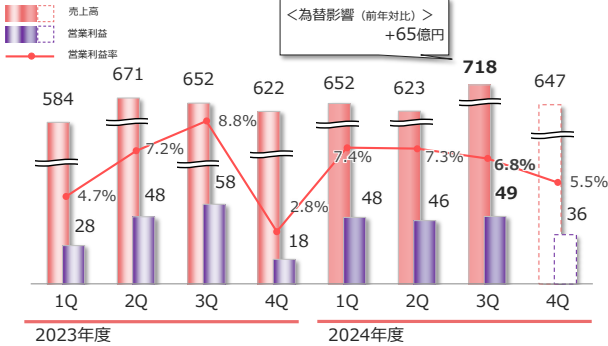
(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

参考資料. セグメント別業績 (3か月情報)

自動車電池 (海外)

増収減益

売上高・営業利益・利益率 (3か月) (億円)

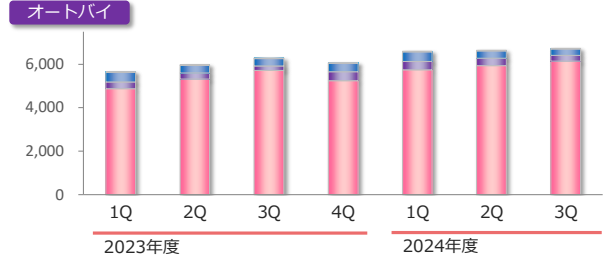
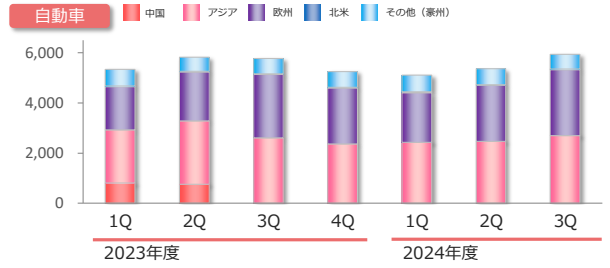


増減益要因 (前年比: 10-12月)

数量・構成変化	+7	戦略拠点を中心に数量増加
売価	+12	コスト上昇の売価反映により増加
原材料価格	+7	原材料価格の下落による改善
経費等	△26	インフレ影響による経費増加
為替	+1	円安による為替影響
超インフレ会計	△10	

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

地域別自動車・オートバイ出荷数量推移 (千個)

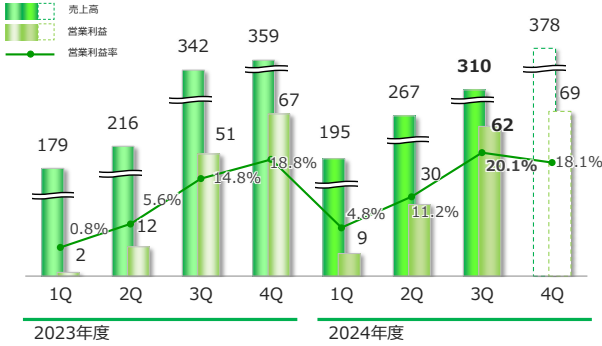


参考資料. セグメント別業績 (3か月情報)

産業電池電源

減収増益

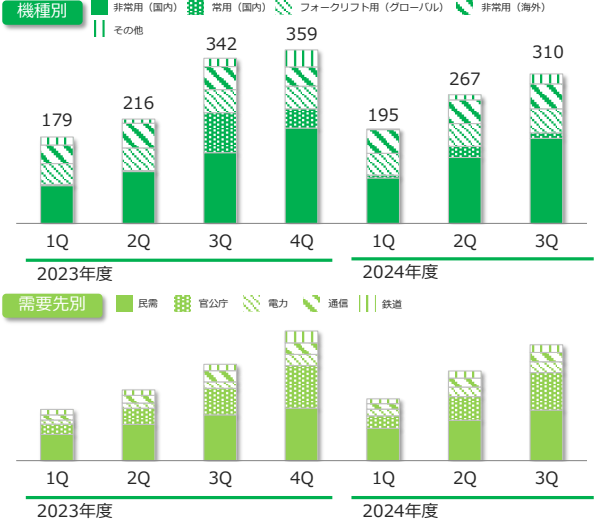
売上高・営業利益・利益率 (3か月) (億円)



増減益要因 (前年比: 10-12月)

数量・構成変化	+1	非常用の案件増加
売価	+13	売価見直しにより増加
原材料価格	△6	円安・インフレによる原材料価格の上昇
経費等	+3	

機種別・需要先別 (非常用 (国内)) 売上高推移 (億円)



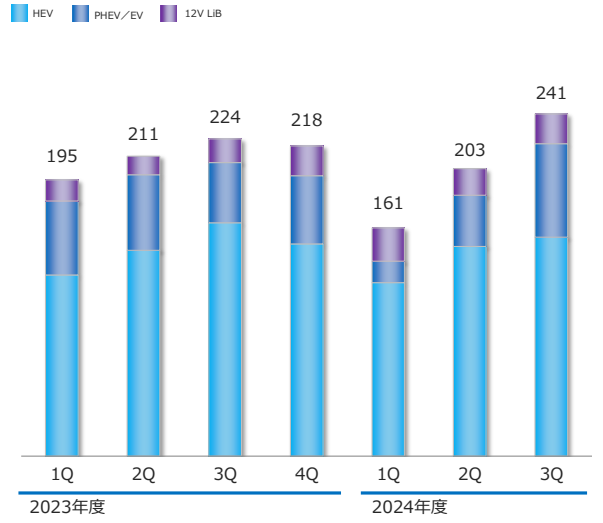
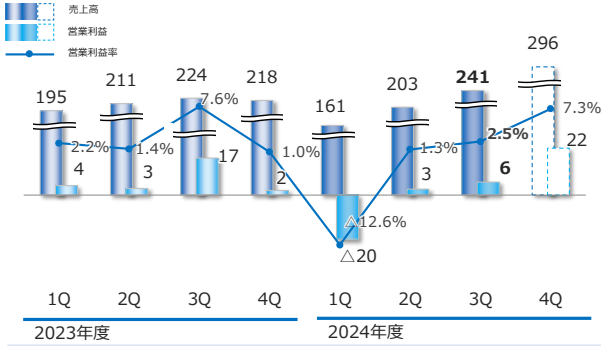
参考資料. セグメント別業績 (3か月情報)

車載用リチウムイオン電池

増収減益

売上高・営業利益・利益率 (3か月) (億円)

HEV・PHEV/EV・12V LiB 売上高推移 (億円)



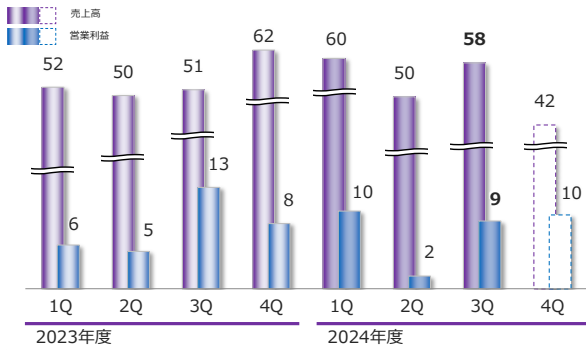
増減益要因 (前年比: 10-12月)

数量・構成変化	△14	PHEV用の増加があったものの、HEV用の販売数量の減少とそれに伴う操業度の低下影響
売価	△64	リチウム市況下落に伴う売価低下
原材料価格	+50	リチウム市況下落に伴う改善
経費等	+17	物量減に伴う経費減など

特殊電池およびその他

増収減益

売上高・営業利益 (3か月) (億円)



増減益要因 (前年比: 10-12月)

潜水艦用リチウムイオン電池などの契約単価見直しがあったものの、管理部門の経費増加により減少

参考資料. 全社・セグメント別地域別売上高推移 (3か月情報)

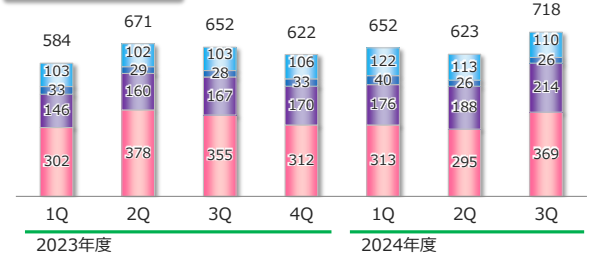
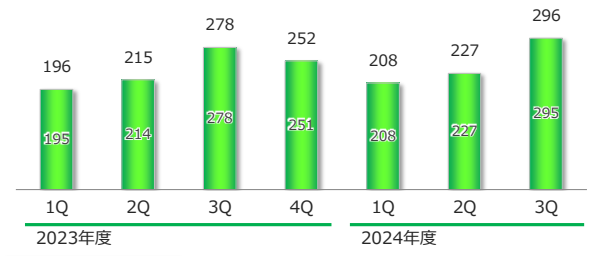
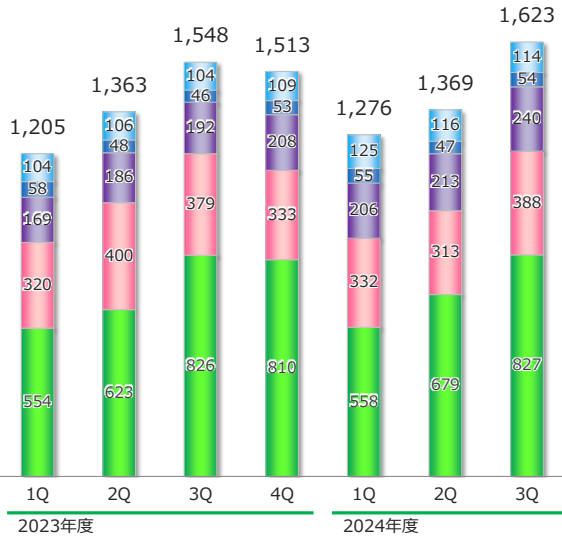


全社 (億円)

■ 日本 ■ アジア ■ 欧州 ■ 北米 ■ その他(濠州)

自動車電池 (国内)

自動車電池 (海外)

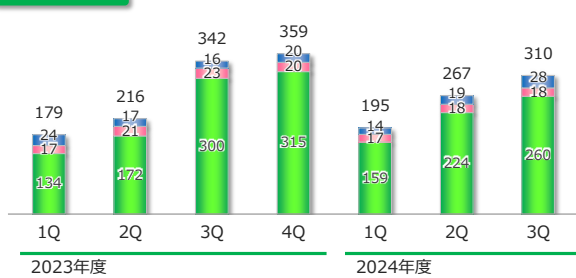


(注) 数値は主な地域のものになります。

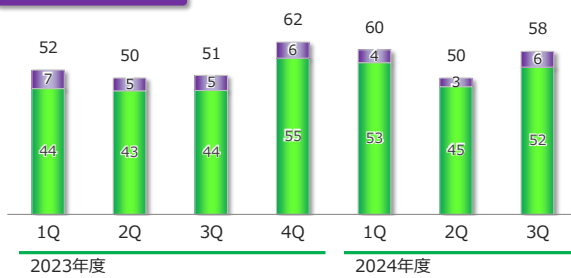
参考資料. 全社・セグメント別地域別売上高推移 (3か月情報)



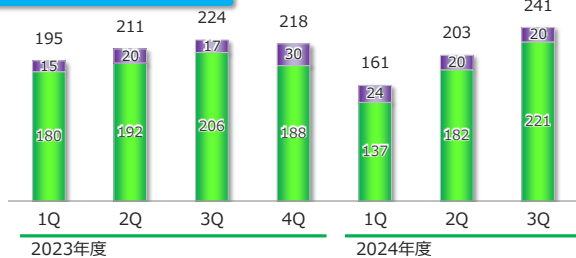
産業電池電源 (億円)



特殊電池およびその他

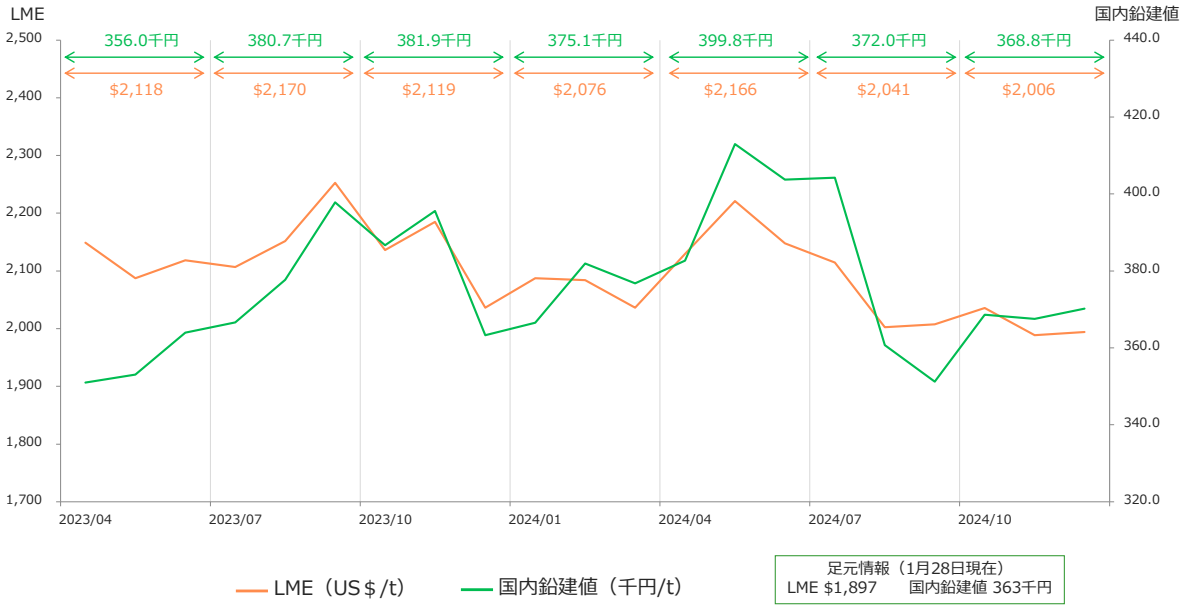


車載用リチウムイオン電池



(注) 数値は主な地域のものになります。

参考資料. 原材料価格の推移

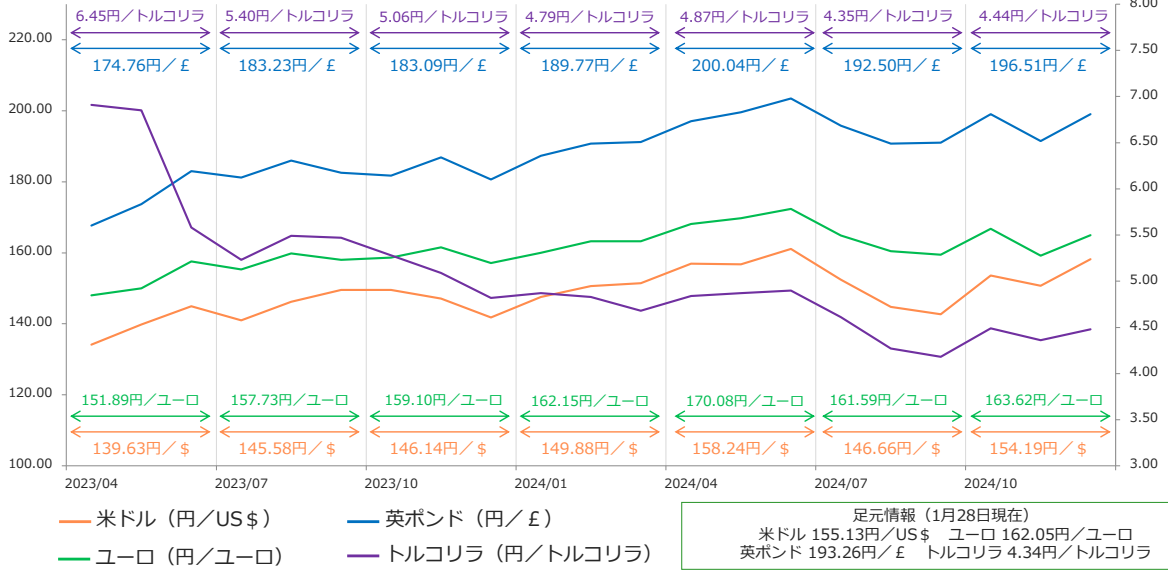


参考資料. 為替の推移



米ドル・ユーロ・英ポンド

トルコリラ



参考資料. セグメント別業績の四半期推移

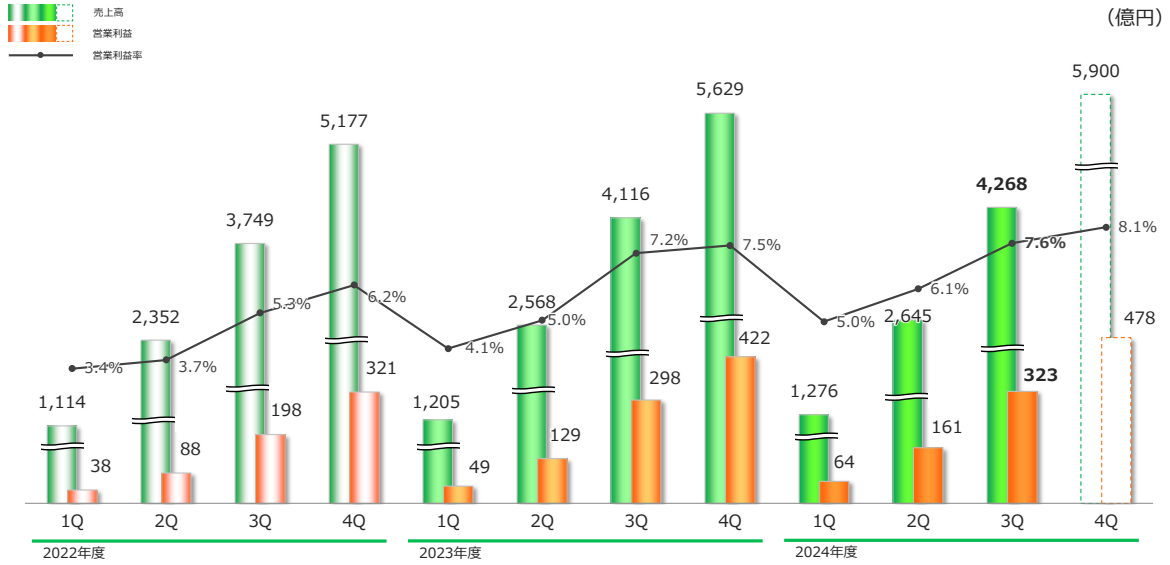


(億円)

		2023 年度										2024 年度											
		第1四半期 (4-6月)		第2四半期 (7-9月)		第3四半期 (10-12月)		第4四半期 (1-3月)		通期 (4-3月)		第1四半期 (4-6月)		第2四半期 (7-9月)		第3四半期 (10-12月)		第4四半期 (1-3月)		通期見通し (4-3月)			
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	EBITDA (EBITDA マージン:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	EBITDA (EBITDA マージン:%)
自動車電池	国内	196	10 (5.2)	215	11 (5.3)	278	30 (10.9)	252	29 (11.4)	940	81 (8.6)	109 (11.6)	208	16 (7.8)	227	17 (7.6)	296	37 (12.5)	-	-	1,000	90 (9.0)	-
	海外	584	28 (4.7)	671	48 (7.2)	652	58 (8.8)	622	18 (2.8)	2,529	151 (6.0)	226 (8.9)	652	48 (7.4)	623	46 (7.3)	718	49 (6.8)	-	-	2,640	178 (6.7)	-
産業電池電源		179	2 (0.8)	216	12 (5.6)	342	51 (14.8)	359	67 (18.8)	1,097	132 (12.0)	151 (13.8)	195	9 (4.8)	267	30 (11.2)	310	62 (20.1)	-	-	1,150	170 (14.8)	-
車載用リチウムイオン電池		195	4 (2.2)	211	3 (1.4)	224	17 (7.6)	218	2 (1.0)	848	26 (3.1)	75 (8.9)	161	△20 (△12.6)	203	3 (1.3)	241	6 (2.5)	-	-	900	10 (1.1)	-
特殊電池およびその他		52	6 (10.9)	50	5 (9.7)	51	13 (25.5)	62	8 (13.7)	215	32 (14.9)	89 (41.4)	60	10 (16.9)	50	2 (3.3)	58	9 (15.0)	-	-	210	30 (14.3)	-
合計		1,205	49 (4.1)	1,363	80 (5.9)	1,548	169 (10.9)	1,513	124 (8.2)	5,629	422 (7.5)	650 (11.6)	1,276	64 (5.0)	1,369	97 (7.1)	1,623	163 (10.0)	-	-	5,900	478 (8.1)	708 (12.0)

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。EBITDAはのれん等償却前営業利益+減価償却費です。

参考資料. 売上高・営業利益・利益率推移 (3か月情報)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

IAS 第29号「超インフレ経済下における財務報告」の概要

▶超インフレ経済下とは、3年累計インフレ率が、100%に近づいているか超えている状態

1.日本円換算時に、資産・負債項目 (BS項目) および収益・費用項目 (PL項目) を **決算日レートで換算** しなければならない

	従来	IAS 第29号
資産・負債項目 (BS項目)	決算日レート	決算日レート
収益・費用項目 (PL項目)	期中平均レート	

2.物価指数 (CPI) の変動を財務諸表に反映する必要がある

■貸借対照表への影響

- ・棚卸資産、有形・無形固定資産などの**非貨幣性項目は取得日・取引日から、資本金は出資時点から、**それぞれ期末時点までの物価変動に応じて修正再表示
- ・利益剰余金は期末時点までの累積的な影響を反映

■損益計算書への影響

- ・すべての科目を、取引時点から期末時点までの物価変動に応じて修正再表示

⇒ インフレ影響による差分を営業外損益「**正味貨幣持高による損益**」に計上

日時	イベント	登壇者
3月17日 (月) 15:00~16:00予定	産業電池電源事業説明会	GSユアサ 常務取締役 産業電池電源事業部長 谷口 隆
5月13日 (火) 15:00予定	2025年3月期 決算発表 (報道機関向け)	代表取締役社長 阿部 貴志 取締役CFO 松島 弘明
同日 16:00~17:00予定	2025年3月期 決算説明会 (機関投資家・アナリスト向け)	同上